

# 新型コロナウイルス感染症 これまで、これから

（公財）結核予防会理事長  
新型コロナウイルス感染症対策分科会元会長

尾身おみ  
身み  
茂しげる

- \* 日本の感染症対策が手薄だった背景
- \* 新型コロナウイルス感染症に対する疫学者の仮説
- \* 伝播力拡大で5類移行後も要注意
- \* 緊急事態宣言を提言した理由
- \* 情報効果と介入効果の違いについて
- \* パンデミックと誹謗中傷を考える
- \* 専門家としての提言と政府の対応
- \* 新しいK P 3株にはどう対処するか
- \* 総合診療医が不足している日本
- \* 重要なのは共創的コミュニケーション



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日の講師のご紹介をいたしますけれども、尾身先生については私から細かく申し上げる必要はないと思います。皆さんご承知のようにコロナの長い苦悩の時期に先頭に立ってこの問題に対応され、昼夜わかつたず非常に長い期間、国民に対していろいろな説明をされた方で、皆さんもよくご存じだと思います。これは私の感想ですが、当時、国民はそのときの首相の発言より先生の一言一言に最大の注意を向けて状況を知らうとしていたと思います。

今回、コロナは5類になっておりますけれども、はたしてコロナは実際収束を本当にしているのかどうかとか、それから日本の感染症に対する対策とか、対応、または体制、これが非常

に脆弱だと思えることがあったわけですけれども、その辺はその後どのようなことになっているのかとか、皆さんそれぞれいろいろ思いがあると承知です。

パンデミックは1回で終わったわけではなくて、最近外国の方もたくさん日本に來られていますし、今後様々な感染症襲来の予想もされますが、そのパンデミックに対してどのように我々は備えていかなければならないかという問題も皆様の心の中にあると思うんです。

先生は政治家、官僚、それから医療関係者、そして市民の間に立ってリスクコミュニケーションの本当に交差点のところをいらいらした方で、国民、市民に対しても今後のパンデミックをまた予想されると思いますけれども、どの